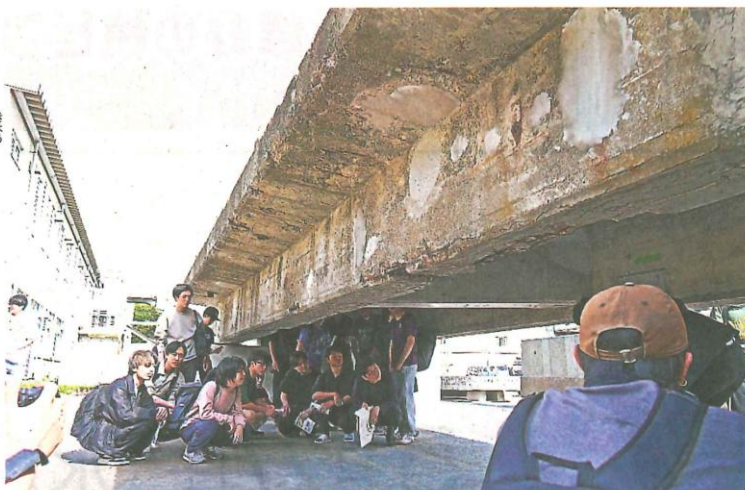


東 奥 日 報
2026年(令和8年)5月27日(水曜日) (22)

土木人材育成へ展示充実 八工大に「ミュージアム」

八戸工業大学は26日、橋梁を中心とした地域のインフラを支える土木技術者の育成や、市民に土木への理



HITインフラミュージアムに一部が移設された梅田橋の構造などを見学する八工大の学生ら

解を深めてもらうことを目的に、「HIT（ヒット）インフラミュージアム」を大学構内に整備し、本年度から利用を開始したと発表した。実際の橋の構造が分かるモデルや、劣化した実物の部材などを展示。技術者の研修や学び直しに加え、小中高生の見学・体験の場として広く活用を呼びかけている。

ミュージアムは屋外に整備し、敷地面積は約600平方メートル。2023年度に同大が整備した「橋梁メンテナンス体験施設」の内容を充実させ、名称を変更した。同大によると、インフラに関する体験型施設は東北の教育機関で初めて。

県土整備部と同大が18

年に締結した「建設系人材支援に関するパートナーシップ協定」に基づき、老朽化により解体した五所川原市の梅田橋（1952年完成）の一部を移設展示したほか、橋梁の構造や各種技術、耐震補強工法などを可視化した構造物を複数展示している。

新屋孝文県土整備部長は「土木系人材の育成・確保は喫緊の課題。施設を通じて人材の育成と定着が進んでほしい」、船崎健一学長は「さまざまな世代に見ていただき、インフラ維持の重要性、難しさを知ってほしい。可能なら、八戸観光の一つの目玉になれば」と述べた。

（千葉真由美）

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」